

生田川地区防災福祉コミュニティ地域おたすけガイド

平成 29 年 3 月作成

生田川地区防災福祉コミュニティ（神戸市）

地域おたすけガイドの活用にあたって…

- (1) 地域おたすけガイドは、地域のみなで災害時に活動する際に、活用するものです。災害時は、周囲の状況をよく確認し、自らの安全を確保し、無理をせず、自分たちのできる範囲で活動を行うことが大前提です。
- (2) このおたすけガイドは、災害時の活動をより効果的にするために、地域で検討して作成しましたが、記載している内容は完全ではありません。
- (3) 防コミで繰り返し訓練を実施し、地域おたすけガイドの内容を検証して、地域に適したガイドにするために、今後見直していきます。



生田川地区防災福祉コミュニティ地域おたすけガイド

防コミ運営本部設置基準

- ・震度 5 弱以上若しくは兵庫県瀬戸内海沿岸に津波警報が発表された場合、地震による災害が発生し、又は災害が拡大する恐れがある場合。
- ・特別警報が出された場合。
- ・上記のほか、大雨等で神戸市に避難準備・高齢者等避難開始、土砂災害警戒情報が発表された場合。

活動方針

阪神・淡路の教訓で、近隣の方々に助けあうことはとても重要です。しかしながら、**周囲の状況をよく確認し、自らの安全を確保し、無理をせず、自分達の出来る範囲で防災活動を行いましょう!!**

防コミ運営本部設置場所	葺合公民館別館
防災資機材庫の場所	葺合公民館 ※ 資機材庫の中身については、p12 の一覧を参照。
避難所	葺合公民館、葺合公民館別館、生田川公園、コミスタこうべ
一時的な避難場所	各市営住宅の集会所
耐震性防火水槽	葺合公民館
災害時要援護者 名簿保管場所	
防災行政無線保有者	葺合公民館、防コミ代表者 2 名
地域内の危険箇所	道幅の狭い区域では、建物が倒壊し道路を塞いでしまったり、火事での燃え広がり危険性がある (p11 の地図参照)

※ 場所の詳細については、p11 の地図を参照。

災害初動対応

■ 地震

□は、その行動が完了したら✓をつける。

【災害発生直後】

個人の行動

1 地震発生直後の安全の確保

- 火を使用している場合は、可能な限り火を止める。
- 地震の揺れを感じたら、まず、丈夫なテーブルの下に隠れるなど、身の安全を確保する。
- 家族の安全を確認する。
- 火災が発生すれば消火器等で初期消火を行う。
- ラジオなどで情報を確認する。

防災福祉コミュニティとしての活動

1 防コミ運営本部による指揮

- 防コミ運営本部に役員が揃わないことが予想されるが、集まったメンバーで本部を立ち上げる。
- 本部に駆けつけた役員の中から統括防災リーダーを決定する。
- 統括防災リーダーは集まってきたメンバーで、情報収集班、安否確認班等の班編成を行う。
- 防災活動が可能な市民を防災本部に召集し、情報収集班、安否確認班など必要となる班に配置する。
- 本部に地域の地図、防災マップを配置する。

また、メンバーで情報を共有するためホワイトボードや模造紙を準備する。

【ホワイトボード等での情報整理の例】

時間	報告者	場所	状況	対策
10:05	A	〇〇方	連絡が取れない	安否確認が必要

- 各街区へ情報収集班と安否確認班を派遣し、地区内の被害状況、安否の状況を整理する。
* 地震時は有線電話、携帯電話は使用できないと考えた方がよい。
- 被害の状況に応じて、活動内容の具体的指示（被災者の救出・救護、消火活動等）を出す。

集まった市民による班行動

■ 情報収集・伝達 → p6 参照

- 現地の確認等により、各地区内の被害状況を調査し、本部へ報告を行う。

■ 安否確認 → p7 参照

- 民生・児童委員等と協力し住民の安否確認を行う。
* ドア等に安否確認済みの目印をつける、安否不明者宅に連絡票を張るなどによる
区別も効果的である。

■ 消火活動 → p8 参照

- 各班で耐震性防火水槽の小型動力ポンプやあらゆる消火器具等を活用し初期消火を行う。
- 出火場所を確認する。
- 消火活動人員の割り振りをする。
* 火災の規模によっては消火器やバケツリレーでの消火も重要である。



■ 救出・救護 → p9 参照

- 二次災害に注意しながら、各班で防災資機材を使用し、被災者を救出する。
- 被災者が負傷している場合は、止血等の応急手当を実施し、医療機関に搬送する。

2 区や消防署への連絡

- 被害情報、活動情報等を区役所や消防署に連絡する。
- 避難所運営で必要な事項を区役所等へ伝える。

3 避難所の立ち上げ

- 学校関係者や区役所職員と協力して避難所を立ち上げる。
- 避難者名簿を作成する。

■ 主な緊急時連絡先

消防 …TEL : 119、FAX : 392-1119

警察 …TEL : 110、FAX : 382-1110

区役所 …TEL : 232-4411

FAX : 222-6825

災害テレセンター (避難情報、避難所開設情報)

…TEL : 0570-078-500

蒼合公民館 …TEL : 232-4026

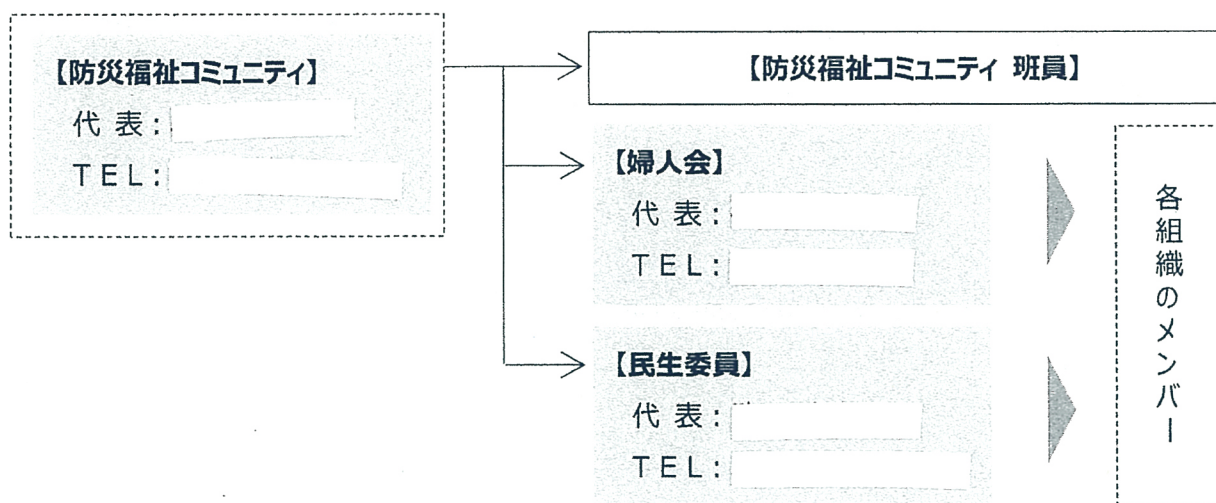
蒼合公民館別館 …TEL : 221-1543

コムスタこうべ …TEL : 251-4731

【防災福祉コミュニティの組織体系と連絡網】

通常時の役割	氏名	電話	地震災害発生時初動期の役割
隊長・副隊長			統括防災リーダー 総括防災副リーダー
情報班			情報収集班
消火班			情報収集班
救出・救護班			情報収集班
避難・誘導班			情報収集班

【緊急時の連絡の流れ】



初動対応後（避難所の運営）

■ 共通事項

□は、その行動が完了したら✓をつける。

【数時間後～3日（72時間）ぐらいまで】

1 役割分担の見直し

- 防災福祉コミュニティの役員の集結状況や災害の状況に応じて役割を、見直す。

2 避難所の運営

- 学校関係者、区役所職員や災害ボランティアと協力して避難所の運営にあたる。
- 女性や子育て家庭への配慮
- 同行避難してきたペットへの配慮
- 災害時要援護者への配慮

要援護者ご本人やご家族の意向を踏まえ、避難所内に一般の方と分けした要援護者のための福祉避難室を設けるなどの対応：保健室の利用など

※特に、知的や精神、発達障がい者のうち、集団生活に対応することが困難な方、透析患者やオストメイト（人工肛門など）などの内部障がい者について、特別な配慮が必要であることを、他の避難者に理解していただくことが大切。

- 福祉避難所を必要とする方について、避難所を巡回する市の保健師へつなぐ。

3 生活情報の収集

- 生活情報の収集及び住民への周知

4 防火・防犯パトロール

- パトロール班を結成し、交代で地域内のパトロールを行う。

情報収集・伝達

- 1 ラジオ、テレビ、防災行政無線等で地震情報等の収集を行う。
- 2 地域内の災害情報を把握する。

情報収集・伝達手順

1 情報収集

収集した情報はホワイトボード等に時系列で記載する。

(1) ラジオ等での情報収集

通信手段が確保されている場合は、ラジオ、テレビ、防災行政無線のほか、電話等も活用する。

(2) 行政からの情報収集

各種機関へ直接連絡を取り、必要な情報を収集する。また、定期的に区役所等に出向くなどして、公開されている情報を収集する。

(3) 各ブロックからの情報収集

情報収集班を各ブロックに派遣し、現状確認により情報を収集する。

2 情報伝達

情報を伝える手段として、ハンドマイク、広報掲示板、回覧板も効果的に活用する。

安否確認

1 安否確認情報の収集

2 安否不明者の確認

事前に用意していない場合は、民生・児童委員等と協力し安否確認を行う

訪問先での確認手順

1 外観の確認

建物に甚大な被害がないかを確認してください。

2 声かけ・呼びかけ確認

門の外側で大きな声で呼びかけ、安否を確認する。

3 ドアをノックする

応答がないときは、呼びかけと一緒にドアをノックしてみてください。

4 庭、勝手口等の確認

状況が把握できないときは、庭、勝手口などの確認をしてください。

5 確認シール貼付

確認した状況に応じて、玄関ドアにシールを貼付してください。

必ず右上部付近に貼付

【シールの色分け】



救助・支援の必要あり



安否の確認できず



確認済み・支援の必要なし



消 火 活 動

- 1 ブロック、自治会単位で耐震性防火水槽の小型動力ポンプ等を活用し、初期消火を行う。
- 2 出火場所を確認し、消火活動人員を割り振る。

消火活動手順

1 消火用水の選定

- (1) 火元に近い消火用水を選定し、強風時には風上側の消火用水を使うなど風向きに注意する。
- (2) 河川使用時はストレーナーを水の流れに向けて投入し、浮かび上がらないようにする。
- (3) ポンプから水面までの高低差は C 級で 7m 以内、D 級で 4m 以内を目安とする。

2 ホースの延長要領

- (1) 道路、建物の曲がり角では大きく曲げて、折れやねじれ、引きずりを避ける。
- (2) ホースの結合は漏水しないように確実に行う。

3 送水の時期

- (1) ホースの延長状況や筒先担当の「放水始め」の合図があってから送水する。
- (2) 放口コックを開けるときは筒先の反動力を考え徐々に行う。

救出・救護活動

- 1 ブロック、自治会単位で防災資機材（ジャッキ、のこぎり、バール等）を活用し、協力して救出活動を行う。
- 2 救護（応急手当）を実施する。

救出・救護手順

1 被害の実態把握

- （1）倒壊建物に取り残されている人がどのような状態か（けがの程度も含めて）確認する。
- （2）建物の倒壊状況および内部に進入するスペースがあるかを確認する。
- （3）二次災害が発生する危険要因がないか確認する。

2 二次災害の防止

- （1）木片、トタン、ガラス等の軽量物を除去する。
- （2）柱、梁等の大きな物の周辺物を除去するときは、これらの大きな物がずれたり倒壊しないようにロープ等で支持、固定する。
- （3）火災の発生に備え、消火器や水バケツを用意する。ガスの元栓や電気のブレーカーは早期に閉止や遮断を行う。

3 要救助者の救出

要救助者の近くまで掘り進んだ後は資機材を使わずに手作業にする。

要救助者を無理に引き出そうとしない。

4 応急手当

出血しているときは清潔なガーゼ等で傷口を圧迫止血する。

災害時要援護者の避難支援

自宅の損傷の状況等により、避難所等に避難する必要がある災害時の要援護者の避難支援を行う。

避難支援のポイント

1 一人暮らし高齢者

迅速な情報伝達と避難誘導、安否確認および状況把握が必要。

2 寝たきりの要介護高齢者

避難時は車いす、担架、ストレッチャー等の補助器具が必要なことがある。

3 認知症の人

安否確認、状況把握、避難誘導の援助が必要。

4 視覚障がい者

音声による情報伝達や状況説明が必要。避難誘導等の援助が必要。

5 聴覚障がい者

補聴器の使用や、手話、文字、絵図等を活用した情報伝達および状況説明が必要。

6 言語障がい者

手話、筆談等によって状況を把握することが必要。

7 在宅人工呼吸器使用者

避難所での電源確保が必要。



■ 防災資機材庫の資機材一覧

用途	品名	個数	備考
消火用	布バケツ	20 個	
	小型放水ポンプ	1 機	
救助用	スコップ	15 本	
	バール	6 本	
	鋸	6 本	
	オノ	3 本	
	ハンマー	3 本	
	簡易ジャッキ	2 機	
	ツルハシ	5 本	
	折りたたみ担架	3 台	
	とび口	6 本	
その他	ヘルメット	30 個	
	手袋	30 双	
	腕章	30 枚	
	携帯用電灯	12 機	
	トランジスタメガホン	2 機	
	広報・訓練用拡声器	1 機	
	収納庫 (大)	1 機	
	収納庫 (箱型)	1 器	
	サルベージシート	8 枚	
	携帯用発電機	1 機	
	トランシーバー	2 台	
	台車	2 台	